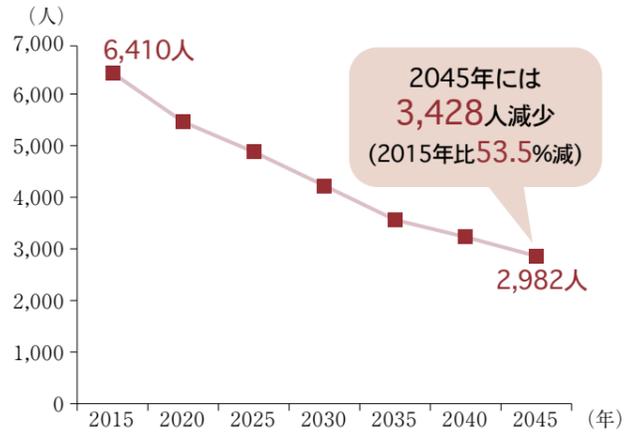


学校教育のこれから

市では、これからの子どもの人口減少を見据えるとともに、変化の激しい社会の中にあっても前向きに、自分らしく生き抜いていくための力を育む教育環境の整備（学校の再編）を検討しています。

問(市)学校教育課

▼三木市の子ども(5~14歳)の人口予測(10学年分)



出典：国立社会保障・人口問題研究所

学校の小規模化

現在、全学年が1学級（クラス替えができない状態）の学校は、小学校7校、中学校2校であり、とりわけ小学校では、ひと学年の児童数が10人を下回る学校がある。また、三木市の子どもが27年後には半数以下になるという国の予測もあり、今後、さらに学校の小規模化が進んでいくことが予想されます。小規模校は、きめ細やかな個別の対応がしやすいことや児童・生徒にとって活躍の場が



平成30年度 市立学校の児童・生徒数

■全学年2学級以上
■学年によっては1学級がある
■全学年1学級

小学校	全児童数(人)
三 樹	332
平 田	334
三 木	313
別 所	315
志 染	66
口 吉 川	56
豊 地	54
緑 が 丘	323
緑 が 丘 東	433
自由が丘	457
自由が丘東	286
広 野	447
中 吉 川	81
東 吉 川	63
上 吉 川	36
みなぎ台	60
合 計	3,656

中学校	全生徒数(人)
三 木	359
三 木 東	394
別 所	143
志 染	45
星 陽	43
緑 が 丘	381
自由が丘	416
吉 川	136
合 計	1,917

学校の再編を検討

市では、学校の統廃合を繰り返すのではなく、その先にある道筋を明確にするため、学校の統廃合とともに、小中一貫校や義務教育学校への再編を検討しています。学校や児童・生徒、地域の状況を十分に検討しながら、時間をかけて進めていきます。

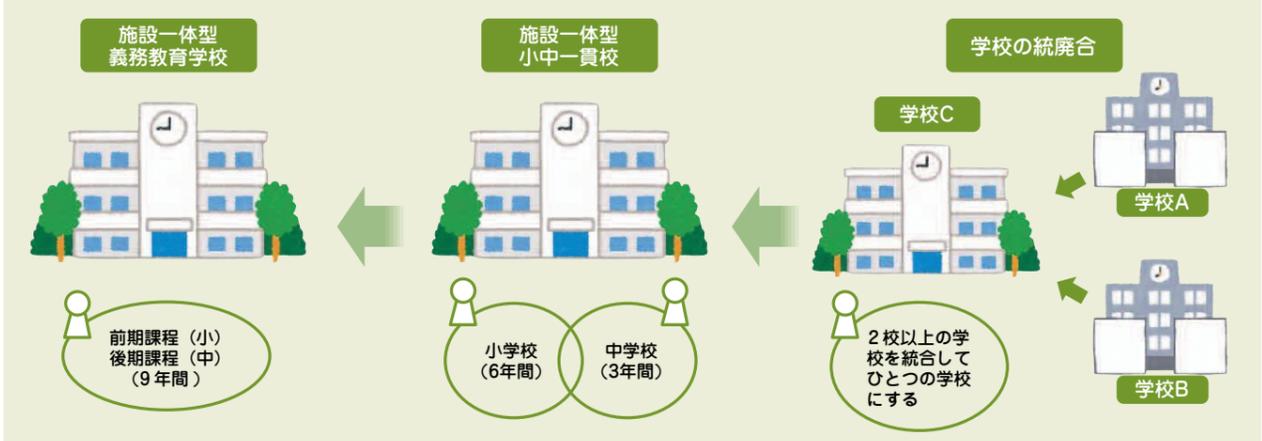
しかしながら、小規模化が進み、学習や行事、部活動などに制限が多い志染・星陽・吉川中学校区については、喫緊の課題として、早急に検討していきます。



○小中一貫校とは
小学校と中学校が情報交換や交流を行い、円滑な接続をめざし、小中一貫で教育を行う学校。

○義務教育学校とは
小中一貫校がより進んだ形で、小学校と中学校が完全に一体化しひとつの教職員集団が9年間にわたり教育を行う学校。

▼学校再編案のイメージ



三木市がめざす教育

市では、1学年2学級以上を基本とした一定の集団規模の中で、小中一貫による教育をめざします。上級生が下級生をいたわり、支援する場面が増えるなど、多様な人とのふれあいの中で、社会性や人間性を育みます。また、小・中学校の教職員による交流や授業改善がさらに進むことで、生活規律の定着や学力向上が期待できます。落ち着いた学校生活の中で、子どもたちが生き生きと学び、活躍できる学校づくりを進めてまいります。

今後の進め方

現在、保護者や地域住民、学校関係者で構成された地域部会を8つの中学校区で設置し、意見交換会を実施しています。また、保護者や地域住民の方を対象とした説明会など、様々な機会にご意見をお伺いしています。その中で出た意見を、学校再編検討会議や総合教育会議で検討を繰り返しながら、今後の方針を決定していきます。

なお、地域部会での意見や会議の議事録などは、市ホームページに掲載しています。



○学校再編検討会議とは
学識経験者、保護者、地域の学校の代表者が、学校再編について協議し、市に意見を述べる有識者会議。

○総合教育会議とは
市長と教育委員会が教育の重要な事柄について協議し、決定する会議。